

市政ニュース

豊岡中核工業団地に(株)シンセイ進出 20年かけて工業団地32区画が完売

中小企業基盤整備機構が分譲していた豊岡中核工業団地（豊岡市神美台）に、(株)シンセイ（本社 九日市上町）が進出することが決定し、3月9日、市役所で土地譲渡契約書の交換式が行われました。カバンの輸入販売を行っている同社は、かねてから手狭である倉庫を拡張する計画をしていましたが、平成16年の

台風23号で本社や倉庫が浸水の被害に遭ったことをきっかけに、同団地に進出することを決めました。

これで、昭和61年に分譲開始した全32区画が完売となりました。現在、同団地では18社が創業、就業人員は約1,000人、出荷額は年間約300億円にのぼっています。

豊岡市社会福祉協議会が発足 旧市町の社協は地区センターに

4月3日、旧1市5町の社会福祉協議会が合併し、新しく「豊岡市社会福祉協議会」が発足しました。

本部となる中央センターは、日高健康福祉センターに設置され、旧市町にそれぞれあった各社協は、地区センターとしての機能を果たすことになりました。各センターの

人員体制は合併前とほぼ変わらず、これまでどおり介護保険や高齢者向けの給食・移送などのサービス、ボランティア活動、福祉関係の相談業務などが行われます。

なお、初代理事長には榎本三郎さん、副理事長には中西正年さんと森貞淳一さんが選ばれました。

ミュージカル「ヒボコ」上演 合併1周年を記念して熱演披露

4月2日、豊岡市民会館で、新市誕生1周年を祝って、ミュージカル「ヒボコ」が上演されました。

このミュージカルは、但馬を拓き、鉄の文化を伝えたと言われる新羅の王子「天日槍」が主人公の物語で、平成6年、「但馬・理想の都の祭典」に合わせて初演されたものです。西宮市の日本ミュージカル研究会と、但馬内の演劇愛好家で結成された但馬ミュ

ージカル研究会のメンバー（9人出演）によって今回9年ぶりに但馬で上演され、約1,000人の観衆は躍動感あふれる舞台に魅了されました。

地元から出演した千葉みつ子さん（高屋）は、「ミュージカルを通して地域に残る壮大な古代ロマンを大勢の方にお伝えでき大変うれしく思います」と感無量でした。

奈佐地区公民館が完成 竣工を機に伝統芸能「奈佐節」が復活

老朽化により建て替え工事を進めていた奈佐地区公民館が3月27日に完成しました。

主体的な地域づくり活動を推進する「県民交流広場」のモデル事業も取り入れ、1階には喫茶スペースや調理室、会議室、和室、2階には多目的ホールを設置しています。

内部には、県内産の木材を

ふんだんに使用し、外観も周囲の環境との調和がとれるように工夫しています。延べ床面積は、約500平方メートルです。

竣工式当日には、式典の後、地域に伝わる「奈佐節」（市指定無形民俗文化財）が地元保存会により21年ぶりに披露され、会場は祝賀ムード一色となりました。



▲新しく完成した奈佐地区公民館



▲今回も新たな感動を呼び起こしたミュージカル「ヒボコ」

コウノトリ支援自動販売機が豊岡駅前が登場 野生復帰にコカ・コーラも応援

4月2日、JR豊岡駅前、「コウノトリ支援自動販売機」の1号機が設置されました。

これは、近畿コカ・コーラボトリング株式会社がコウノトリ野生復帰事業を支援しようとして設置されたもので、売上の一部が「コウノトリ基金」に寄付されます。また、消費電力の一部は、市内企業のカネソーラーテック製の太陽光発電システムによって供給され、環境に配慮された構造

となっております。

同社の守都社長は、「地域に貢献する活動の一環として、コウノトリ野生復帰活動に参加することになりました。これからも市と協力して、野生復帰事業の支援のネットワークを全国に広げていきたいと思います」と抱負を述べていました。

なお、近日中にアイティ7階の市民プラザに紙コッ

プの自動販売機が設置されるとともに、年内中には市内に15台設置される予定です。



▲コウノトリ支援自動販売機の除幕を終えて、握手を交わす中貝市長と森都社長

純米酒「コウノトリの贈り物」発売開始 貴重な酒米「フクノハナ」全量使用



▲発売開始に先立って3月21日、新酒発表会が行われた。右から中貝市長、本田部長、酒造会社・福光屋の川口常務

国内で豊岡市出石町が唯一の産地である酒米「フクノハナ」を100パーセント使用した日本酒「コウノトリの贈り物」が4月1日、全国で一斉発売されました。

このお酒は、出石町にしかない酒米「フクノハナ」を全国に売り出そうと、農家と酒蔵、JA、県、市が一体となり開発

されたものです。豊かな旨みを含んだキレのある味わいに仕上がっており、ビンラベルには、太陽を背景にコウノトリの舞う姿が描かれています。

「出石フクノハナ生産部会」部会長の本田十世三三さんは「仕上がったお酒は最高の出来です。コウノトリの名に乗って、この商品が全国に広がり、皆さんにさらに気に入ってもらえるよう、今後米づくりに精進していきます」と笑顔で話していました。

九州石油(株)から野生復帰事業に支援の申し出 企業をあげて応援します

コウノトリを会社のシンボルマークにして、石油精製・販売を行い、九州・関東を中心に販売網を持つ九州石油(株) (本社・東京) から、3月1日、コウノトリ基金に100万円を寄付を受けました。

同社は、昨年9月の放鳥において、本市が地域をあげてコウノトリの野生復帰を進めていることを知り、社会的貢献活動の一つとしてこの取組みに支援を行うことを決定されました。

今後、毎年コウノトリ基金へ寄付するほか、給油所などにポスターを掲出し、コウノトリファンクラブへの入会や野生復帰計画をアピールするなどの支援を行う予定です。コウノトリが縁で生まれた今回の申し出ですが、遠く離れた場所でも関心をもって野生復帰を支えてくれる人たちがいることは、大きな励みとなります。

寝台特急「出雲」が廃止 豊岡駅でも市民が別れを惜しむ

山陰と東京を結ぶ寝台特急「出雲」が3月のダイヤ改正により廃止になりました。昭和53年に運行が始まった「出雲」は、但馬の人にとって東京へ出張や旅行する際の重要な交通手段の一つでした。最終便が運行された同月17日夜、JR豊岡駅で開催された「さよならセレモニー」には大勢の市民が駆けつけ、最後の雄姿を見届けました。



▲「出雲」最後の運行をカメラに収める人たち